

- 石井会長のごあいさつ-----①
- 資格取得講習会、第2回技術研修会-----②
- 計量のひろば、同つどい、闊プロ-----③
- 東西計コン見学会、懇親ゴルフ報告、コラム-----④

Libra Vol. B048
2019年2月12日発行

発行/一般社団法人 計量器コンサルタント協会
連絡先 〒136-0075 東京都江東区新砂3-3-41
一般社団法人 東京都計量協会内
TEL 03-6666-8960 FAX 03-6666-8970

計量の安心・安全・信頼を推進する
計量器コンサルタント

石井康二会長 新年のごあいさつ



石井康二会長

会員の皆様、新年おめでとうございます。穏やかで清々しい年明けを迎えました。おかげ様で昨年の公式行事及び理事会は滞りなく終了することが出来ました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、既にご承知のことと思いますが、今年我が国で約200年ぶりに天皇陛下の譲位が執り行われことになりました。31年続いた平成時代も5月1日に新しい元号に改元されます。現在では元号を用いているのは国際社会において日本国のみとのことですが、私個人的には固有の文化として多くの国民が夢や希望そして新たな活力を生み出すことの出来る明るく素晴らしい元号となるように期待しております。4月1日の発表が今から楽しみであるのと同時に歴史に残る大きなイベントに立ち会える喜びを感じえません。

一方、私たち計量業界においても、大きな変化が起きようとしております。ひとつは今年4月から自動補足式ばかり(自動重量選別機等)の検定がスタートするということです。現在、計量行政室では技術基準を規定するJISの整備や、検定や型式承認の手数料の制定など急ぎ進めており順次情報が出てくる

ことと思います。この改定で民間指定検定機関や器差のみ検定を行う指定検定機関の新設が見込まれており新しいビジネスチャンスとなることを願ってやみません。

もう一つの大きな変化は、キログラムの定義が変わると言うことです。昨年の国際度量衡総会の決議を受け、この5月20日に130年もの長きにわたり質量の基準であった「国際キログラム原器」がその役目を終え新しく「プランク定数」という物理学の定数を介して1キログラムが定義されることとなります。つまり目に見える物質から物理的な定数に置き変わるのです。物理学に疎い私には、言葉は理解できたとしても漠然とした違和感がありました。が、昨年「プランク定数」を介して作られた1キログラムのシリコンの真球を見たときに今回の定義改定の意味がようやく理解できました。つまり世界で一つだけの不変で基準となる神様の「国際キログラム原器」に万が一でも変化があった場合、質量の基準が根本から覆ってしまいます。そのために厳重な管理のもと保管されているのですが、ガスなどによって表面が汚染され極めて僅かですが質量の変化がおきることが確認されているそうです。そこで普遍的な基礎物理定数に基づいた定義に改定すべく研究が進められ「プランク定数」に基づく新たな定義が導き出されたのです。そして直径94mmのシリコン単結晶球体の形状を1nm未満の精度で製作し測定する高水準の技術があったからこそ定義の改定がなされたのです。聞けばこの技術は日本を始め、米国、カナダ、ドイツなどの数か国のみが持っているとのことで今更ながら日本の技術水準の高さに感心させられます。今後はこの定義改定を広く一般に知らしめていかなければなりません。言葉の意味も含めて簡単で分かりやすい訴求を心がけて行きたいと思えます。

ここで速報がございます。今年3月に関東エリアで5年ぶりに「計量器コンサルタント資格認定講習会」を開催することとなりました。計量器コンサルタントの資格は言わずもがな、計量業界に携わる者として、メーカーや販売事業者問わず適切なコンサルタント業務を行うためにはぜひとも取得して頂きたい資格であります。当協会の会員企業の中で、未取得の方々がいらっしゃいましたらこの機会に受講をお勧めいたします。また講習は新たに特定計量器に加えられた「自動ばかり」の単元もございますので既に資格をお持ちの方の再受講も歓迎いたします。開催の詳細は追ってご案内させていただきますので何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご健勝と益々のご繁栄を祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

計量器コンサルタント資格取得講習会のご案内

協会は、2019(平成31)年3月9日の土曜日、計量器コンサルタント資格取得講習会を東京都新宿区納戸町の日本計量会館3階会議室で開催します。計量器コンサルタントは、計量業界に携わる者としてぜひとも取得してほしい資格であり、計量器の安全・安心そして安定供給を担う上でも必要不可欠であります。特に計量器販売事業者は、お客様のニーズに最適なコンサルティングと情報提供が求められており、自分自身のスキルアップや専門知識の習得にお役立ていただければと思います。

今回の講習会は新たに特定計量器に加えられた「自動はかり」の単元を追加して計量法の概要から計量管理に至る最新の内容となっています。資格取得の方から取得済の方の再履修も受け付けております。

同研修会の概要は以下の通り。

計量器コンサルタント資格取得講習会

【日時】3月9日(土) 9時30分～17時00分

【講習会場】

日本計量会館 3階大会議室
(東京都新宿区納戸町25-1)

【受講料】

初受講の方 15,000円

再受講の方 10,000円

【受講資格】

日本計量振興協会または地方計量協会の会員企業に所属する従業員で、原則として1年以上従事し、または同等の経歴を有するとして事業主が推薦した者。

【講習内容】

9時30分～9時40分

「開講にあたり」

9時40分～11時10分

「計量法の概要」

10分休憩

11時20分～12時20分

「自動はかりと計量法の規制」

昼食

13時20分～14時20分

「計量管理の概要」

10分休憩

14時30分～15時20分

「計量器の知識」

10分休憩

15時30分～16時30分

「測定のトレーサビリティ」

16時30分～17時00分

「理解度チェックリスト、アンケート記入・終了証交付」

【お問合せ】

(一社)東京都計量協会

電話03-6666-8960、FAX03-6666-8970

(一社)日本計量振興協会

電話03-3268-4920、FAX03-3268-4924

【振込先】

みずほ銀行浜松町支店 普通0570818

(一社)計量器コンサルタント協会

第2回技術研修会のご案内

協会は、平成30年度第2回技術研修会を3月6日(水)13時30分から、東京・浜松町の大和製衡東日本支店会議室で下記の通り開催します。さて、既にご承知の通り計量法の改正により今年4月から自動補足式はかりの検定が順次スタート致します。計量行政室では技術基準を規定するJISの整備や、検定および型式承認の手数料等、現在急ピッチで検討が進められております。そこで会員の皆様と最新情報の共有を図るため、世界最先端の「定量計量」をコア技術として、社会の発展と生活の向上に貢献し続ける「はかり」の専門メーカー大和製衡を訪ね、最先端技術やオートチェッカー等の製品に触れ研修をさせて頂くこととしました。

ご多忙の折とは存じますが、ぜひともご参加頂きます様お願い申し上げます。

【開催概要】

1. 日 時:平成31年3月6日(水)

午後1時30分～3時30分(2時間)

2. 場 所:大和製衡株式会社 東日本支店
東京都港区浜松町1-22-5、KDX浜松町センタービル4階、電話:(代表)03-5776-3121

3. 交通機関:JR浜松町駅より徒歩2分 地下鉄都営大江戸線・浅草線 大門駅B1出口より徒歩1分

4. 内 容:

・はじめに(会社紹介)

・改正計量法について

・自動はかりの検定について(チェッカーを使用した実演)

・質疑応答・意見交換

5. お問い合わせ:

計コン事務局 TEL 03-6666-8960、FAX03-6666-8970、E-mail;y-kitano@tokeikyo.or.jp

2018「都民計量のひろば」(新宿西口ひろば)

「都民計量のひろば」が11月1日に実施された。計量思想の普及啓発を図るとともに計量器コンサルタント制度のPRを行った。企画、立案の幹事会・実行委員会から参画し、当日は、人気の高い「健康と計量コーナー」を担当した。説明応援要員として数名が応援、機器の操作や計測を行ったほか、今年も計量に関する景品付きクイズも実施した。



計量記念日のつどい

都計協主催の計量記念日のつどいが11月9日に開催された。東京都生活文化局長感謝状の経営者の部では、当会理事の吉田茂(東京ミュー精器代表取締役)が、東京都計量協会会長表彰の特別功労者の部では岩下貞治(岩下度量衡代表取締役)がそれぞれ受賞した。



局長表彰を受賞した吉田茂氏(右)



関東甲信越地区計量団体連絡協議会開く

平成30年度関東甲信越地区計量団体連絡協議会が10月12日(金)栃木県宇都宮市で開かれ、200名が参加した。

今年の協議会も議事のなかには、現在計量法改正によって関係者の関心の高いその内容の情報交換に多くの時間が割かれた。

翌日は関ブロの参加者と一緒に当会主催の懇親ゴルフ対価を開催した。(詳細は次ページを参照)



東西計量器コンサルタント合同研修見学会を実施

(一社)計量器コンサルタント協会は、9月21日(金)「東西計コン合同研修見学会」を開催した。これは当協会と大阪計量器連合会が会員相互の親睦と交流を深めるための行事で今年度は東京が幹事となり企画した。東京から16名、大阪から4名合計20名の参加となった。今回は、茨城県の筑波研究学園都市を訪ね、次の3か所の研究施設を見学した。「高エネルギー加速器研究機構(KEK)」「宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター」(JAXA)「気象研究所」(MRI)の3施設。

KEKは宇宙の起源ともなる物質を構成する原子核や電子、陽子、中性子といった素粒子、原子核の研究に携わっており、基礎科学の重要な役割を果たしている。JAXAに移動。現在、宇宙で運用中の「きぼう」/国際宇宙ステーション(ISS)

の地上管制室や日本実験棟の実物大モデル、宇宙飛行士養成エリア等を見学。展示館「スペースドーム」では実物大の人工衛星や本物のロケットエンジン等の展示を見学した。気象研究所では、所内設置のスーパーコンピュータシステム室を見学。このコンピュータは仮想の地球(陸・海・大気)を作り、様々な物理計算式に基づいて将来の予測や過去の再現実験を行う目的で運用されている。台風や、集中豪雨、地震津波、火山等による災害の軽減や、地球温暖化、環境変動の解明に向けた研究が進められている。その後は東京・神田の中華料理の「東園」にて懇親会を開催した。

第9回計コン協会懇親ゴルフ大会を栃木県鹿沼市で開催

【第9回計量器コンサルタント懇親ゴルフ大会を栃木県鹿沼市で開催】

当協会は、2018年10月13日の土曜日、栃木県鹿沼市の「南摩城カントリークラブ」に於いて、薄曇りの中、懇親ゴルフ大会を開催した。「南摩城カントリークラブ」は今大会の「第1回」を開催したゴルフ場。丸4年が経過した。

参加者は当協会員が6名、当協会員のご友人が1名、(一社)日本計量振興協会から2名、メーカー1名、販売店1名と前日の関東甲信越地区計量団体連絡協議会(通称「関ブロ」)から参加していただいた茨城県から2名、山梨県から1名の合計14名。今大会最高参加人数となった。



参加プレイヤーで、記念撮影。



優勝は関ブロから参加していただきました茨城県の小林一雅さん。(上写真の右)初参加で初優勝。ベストグロは加藤覚さん。)

一口計量コラム「キログラム(kg)原器」

私たち計量人が知ってるつもりが? そんな用語を披露。「キログラム原器」は、計量の基準として最も基本となるものです。何をもとに重さが正しく計量されているか、重要ですね。メートル条約に基づき、1キログラムの質量をもつと選定された標準分銅で、白金90%、イリジウム10%の合金製の直径・高さとも約39mmの円柱体。1885年に40個の原器が作られ、1889年第一回国際度量衡総会で承認され、国際度量衡局に保管されている。条約加盟各国にはこれと同じ構造のものが配布され、各国原器とされている。日本国キログラム原器はNo6と呼ばれ、産業技術総合研究所計量標準総合センターに保管されている。現在 摩擦や汚れなどで質量変化を起こすという問題があるので、2019年5月20日より、キログラムはプランク定数を用いた定義に変更され、原器に基づく定義は廃止となります。その誤差は、50 μ gと言われている。